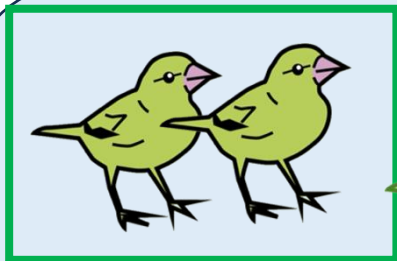


議題：IBO施設におけるオガサワラカワラヒワの令和7年春繁殖について

# IBO施設におけるオガサワラカワラヒワ の繁殖試行について（2025年春）

（特非）小笠原自然文化研究所  
環境省

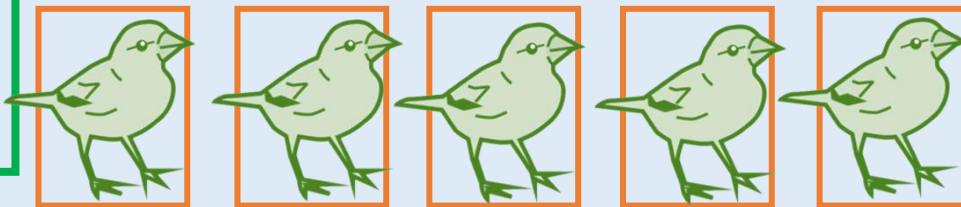
父島



繁殖試行1ペア  
繁殖用ケージ



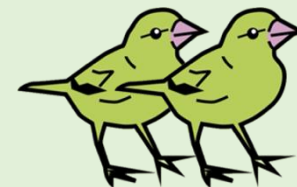
大神山飼育室



予備5個体（2ペア＋1羽）  
単独 竹カゴでの長期飼養

大神山モニタールーム

上野動物園



繁殖試行1ペア  
3月～

繁殖用ケージ

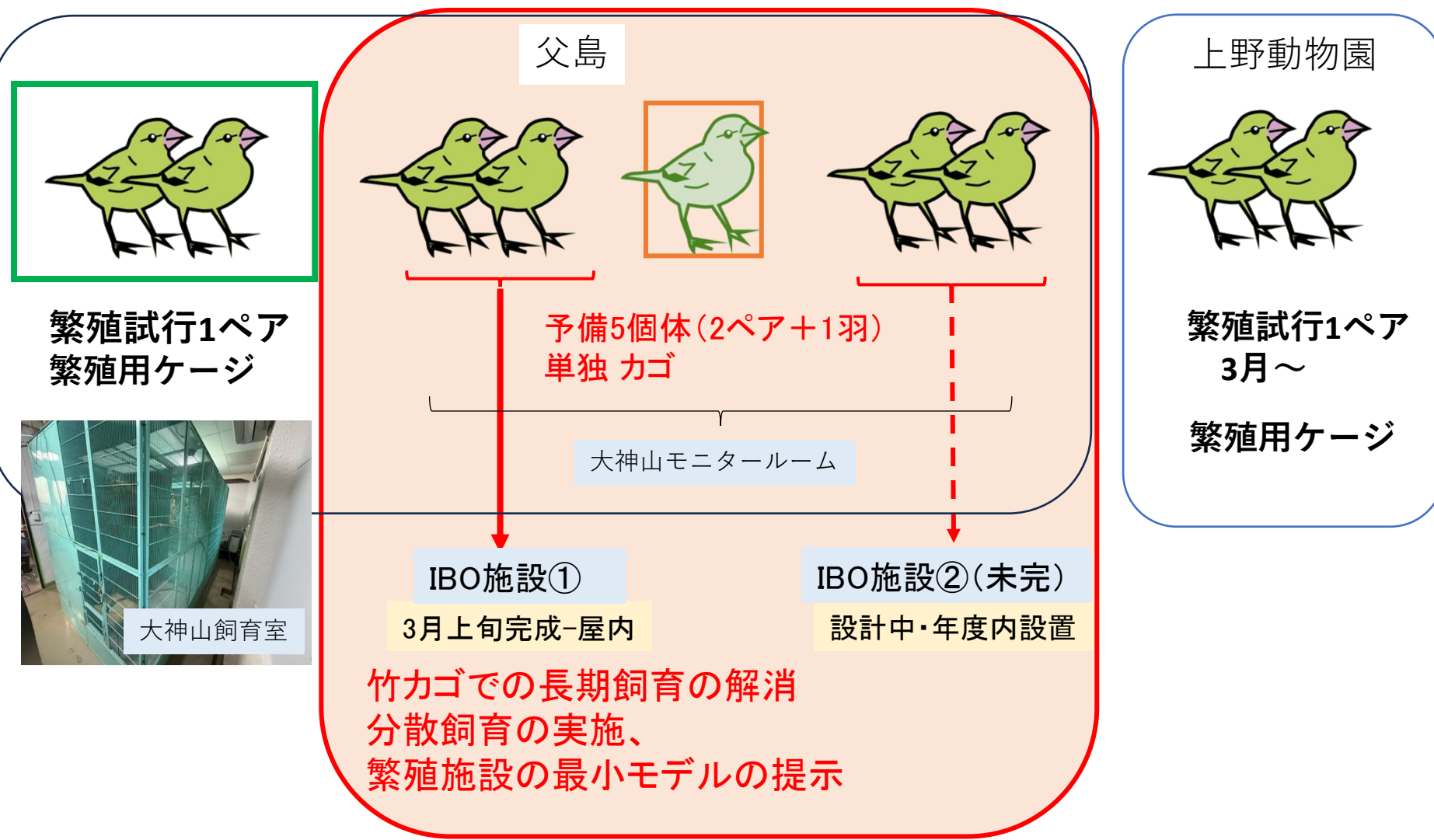
○母島 大型飼育繁殖施設：当面の間、設置が難しい可能性大

○父島旭山 屋外施設：シロアリ害の対策修理中、ネズミ害防止の新設計基準模索中  
→2025年春繁殖の利用は困難

○域外保全の取り組み開始後にわかってきた、新たな課題から繁殖施設が不足した

- ・ 鳴き声による隣接施設間の交叉的な繁殖攪乱の発生
- ・ 屋外施設の台風避難（繁殖試行中断）の頻度の高さ
- ・ ♂の集団飼育困難

# ネズミ、シロアリ、台風対策済で空調有、安全管理可能な屋内施設の提案



- ・春に予備1ペアの繁殖試行を実現し、秋又は年度内に更に1ペアの繁殖試行を実現させる
- ・2021年に都が設置した目標「島内5ペアの繁殖」の実現を、都とともに目指したい

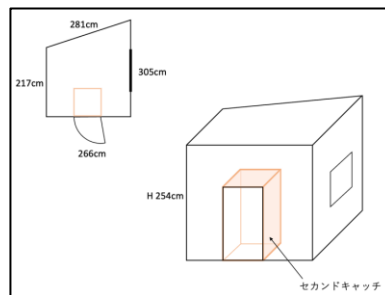
# 大神山屋内ケージに準ずるスペックの施設で、1ペアの繁殖飼育開始

設備: エアコン、換気扇、空気清浄機兼除湿器、自動照明、温湿度計、モニターカメラ6台、人工巣、自然木、珪砂他

○2025年4月～都繁殖予備5羽中の **2羽 9♀、13♂** を譲り受け、  
保護増事業の一環としてIBOで飼育開始。

○繁殖試行のコンセプト(大神山連結ケージに準拠)

- ・人間の攪乱を最小化 → 珪砂を敷き、床面清掃しない。  
→ Wifiカメラによる監視の強化
- ・基本餌として総合栄養食ペレット(Mazuri)を使用。





＜第1クラッチ 4月4日～5月17日＞ 脚不調で繁殖試行中断 → 手術(動物対処室) →  
繁殖試行の再開後に交尾 → 産卵 → 産卵後も♂発情持続 → ♀抱卵放棄



←求愛給餌

右脚不調→



←交尾

抱卵中♀→



＜第2クラッチ 5月19日～6月26日＞ 交尾・産卵 → 産卵後も♂の発情持続確認 →  
♂を隔離・面会方式を試行 → 4羽孵化 → 1羽のみ生育・20日齢で巣立ち



枝中に自然巣を形成



←育雛の様子

巣立ちヒナ→



＜第3クラッチ 7月7日～7月18日＞  
♀体重変化から産卵を推測 →  
抱卵確認 → 無精卵4(検卵) →  
♀ヒナ捕獲、春繁殖終了



巢内の4卵 (無精卵)

## 2025年春繁殖で得られた知見

- ・隣接ケージでは交叉的な繁殖攪乱（行動、鳴き声の遮断が必要）
- ・狭い繁殖空間では♂♀のコントロール（♂行動、鳴き声の遮断）が必要
- ・自然巣の形成：→近縁種や域内の営巣知見とは異なる（藪内・低所）
- ・♂と♀の一時隔離は、繁殖行動の誘発に有効？
- ・♀の体重精査で、卵形成の推定可能
- ・抱卵日数14日、20日齢で巣立ち、自力採餌初認は25日齢、35日齢で独立
- ・擬交尾：→♂不在が理由？
- ・足環の不具合は生存・繁殖に悪影響

## 2025年秋繁殖に向けての検討項目

- ・飼育環境の改善 → 集合長屋からペア別に隔離・分散へ
- ・営巣条件の精査 → 巣材、形状、位置
- ・♂と同居したままでの繁殖試行
- ・繁殖個体の活用方法、性別判定、足環装着